



2024年4月2日

各 位

会社名 株式会社 ライトオン
代表者名 代表取締役社長 藤原 祐介
(コード: 7445 東証スタンダード市場)
問合せ先 取締役管理本部長 大友 博雄
(TEL: 029-858-0321)

2024年8月期第2四半期累計期間及び通期業績予想の修正、特別損失の計上及び
財務制限条項への抵触の見込み並びに対応結果に関するお知らせ

2023年10月10日に公表しました2024年8月期(2023年9月1日~2024年8月31日)の通期業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 2024年8月期第2四半期(累計)業績予想の修正(2023年9月1日~2024年2月29日)

(単位: 百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A) (2023年10月10日公表)	23,500	80	50	△150	△5円07銭
今回修正予想(B)	21,298	△1,331	△1,353	△1,617	△54円67銭
増減額(B-A)	△2,201	△1,411	△1,403	△1,467	
増減率(%)	△9.4	—	—	—	
(ご参考) 前期第2四半期実績 (2023年8月期 第2四半期)	24,600	254	191	△95	△3円22銭

2. 2024年8月期通期業績予想の修正(2023年9月1日~2024年8月31日)

(単位: 百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A) (2023年10月10日公表)	44,500	150	100	△400	△13円52銭
今回修正予想(B)	41,000	△2,400	△2,500	△3,200	△108円18銭
増減額(B-A)	△3,500	△2,550	△2,600	△2,800	
増減率(%)	△7.9	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 (2023年8月期)	46,926	△922	△1,048	△2,545	△86円06銭

3. 修正の理由

当第2四半期累計期間は、2023年8月期の業績を踏まえ、既存店売上高の伸長率を保守的に見通すとともに、期初発注量の抑制と期中の売れ行きを見極めた柔軟な仕入体制の実現や、過年度からの持ち越し在庫の消化促進等の在庫適正化に向けた計画を立案し、売上高は前年同期比4.5%減の23,500百万円（既存店売上高前年比98.9%）と見込んでおりました。しなしながら、ボトムスはNBを中心に定番のブルージーンズが堅調に推移したものの、トップスは9月の記録的な残暑によりカットソーなど秋物商品の販売に苦戦し、また、暖冬の影響により防寒アウターなど冬物商品の販売にも苦戦いたしました。年始以降はセール商品のまとめ買いイベントの効果により、売上は回復傾向となりましたが、当第2四半期累計期間を通して客数及び買上げ点数は伸び悩みました。

成長チャネルとして強化に取り組んだECビジネスにおきましては、EC限定商品の充実化やデジタルマーケティングの強化により、自社ECでの販売は堅調に推移したものの、外部モールの苦戦が響き、店舗受け取りを含むEC関与売上は前年同期を下回る結果となりました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は前年同期比13.4%減の21,298百万円（既存店売上高前年比90.3%）と期初計画を下回る結果となりました。

利益面におきましては、引き続き販売費及び一般管理費の抑制に努めたものの、在庫適正化への取組みとして大幅な在庫圧縮を実施する中で、天候不順によるシーズン商品の消化率低迷により値引き幅が拡大したことで利益率は低下し、営業利益、経常利益ともに期初計画を下回る見込みとなりました。また、退店を決定した店舗及び収益性の厳しい店舗、固定資産の譲渡に伴う減損損失を計上したことなどにより最終損益も計画を下回る見込みとなりました。

通期の業績予想につきましては、上期の実績見込みに加え、足元の売上状況を踏まえて、下期の売上高を期初計画の21,000百万円（既存店売上高前年比98.9%）から6.2%減の19,701百万円（既存店売上高前年比93.7%）と見込んでおります。

利益計画につきましては、当年度は抜本的な収益構造の転換を図るための「戦略見直しステージ」と位置づけ、当下期も引き続き、在庫適正化による収益構造改善への基盤作りを推進していくことから、通期の利益予想を見直しております。

4. 特別損失の計上

当社は、2024年8月期第2四半期会計期間（2023年12月1日～2024年2月29日）において、退店を決定した店舗及び収益性の低下がみられた店舗、また、固定資産の譲渡などについて、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、減損損失218百万円を計上したこと等により、当四半期会計期間で計上した特別損失は合計で233百万円となりました。

5. 財務制限条項への抵触の見込み及び対応結果について

業績予想の修正に伴い、当社が複数の金融機関と締結しているシンジケートローン契約等に規定する財務制限条項の、『各本・中間決算期の末日における当社の単体の貸借対照表上において、純資産の部の金額を、当該決算期の直前の決算期の末日または2019年8月決算期の末日における当社の単体の貸借対照表上において、純資産の部の金額のいずれか大きい方の60%の金額以上に維持すること。』及び『各本・中間決算期の末日における当社の単体の損益計算書上において、2半期（各本・中間決算期毎に1半期として計算する。）連続して経常損失を計上しないこと。』に抵触する見込みとなりました。関係金融機関に対し、期限の利益喪失に関わる条項を適用することなく、当該契約を継続するよう要請し、すべての関係金融機関より、期限の利益喪失に関わる条項を適用しない旨の書面による承諾を得ております。

以上